

新潟水俣病公式確認 61 年

新潟水俣病の歴史と教訓を伝えるつどい 披露作文

阿部 朝香

「大好きな新潟のために私ができること」

私の家の近くには、阿賀野川があります。身近な自然ですが、橋をわたるときは、阿賀野川の大きさに毎回おどろいています。そのいつも見ている阿賀野川がおそろしい病気の水俣病に関係していると知った時は、とてもおどろきました。そこから私は、環境について興味を持つようになりました。

新潟水俣病は五十九年前に初めて新潟県で発見され、たくさんの人を苦しめた病気です。私は、社会の学習で新潟水俣病資料館に行きました。そこで、私が生まれ育った新潟でもひがいがあったこと、ひがいにあった人にしか分からないつらさがあることを知りました。水俣病は、体だけではなく心も傷つけた病気です。病気で心も傷つくことについて私は今まであまり考えたことはなく、すごく心に残りました。

水俣病のかん者は、たくさんの人から差別を受けました。手紙で言葉の暴力を受けたことも苦しかったと資料にのっていました。水俣病かん者が、差別をやめてほしいという切ない気持ちが資料から伝わりました。一方で、どういう病気なのか分からなくて、自分にも水俣病にかかるのではないかと不安になる周りの気持ちも分かりました。当時の人たちの気持ちで考えると、正しい答えを見つけられず、モヤモヤした気持ちになりました。

もう一つ心に残ったことがあります。それは、語り部さんという水俣病かん者本人の話を聞いたことです。語り部さんは、「人間と環境は協力して暮らしていかないといけない」とおっしゃっていました。この言葉から私は、人は環境を巻き込んで自分勝手なことをしてきたのだな、と語り部さんの話を聞いて感じました。だから、語り部さんは、この先もずっと環境と人間が正しい関係で生活していけるように、この言葉をたくさんの人に伝えてほしいのではないかと思います。語り部さんの話を聞いたことで環境について自分にできることはないのかと考えることが多くなり、SDGs について興味をもちました。

私は、水俣病を知る経験を通して、環境を大切にすることは、人間が快適に過ごすために必要なことだと分かりました。自然の美しさがくずれてしまうと、人の生活も変わってしまい、人間の健康にも被害が出てしまいます。新潟水俣病資料館で学んだ悲しい思いをする人々が二度と出てはいけなくて強く思います。今まで起きたことをふり返り自然について考え、これからも生活していきます。

私の夢は、学校の先生になることです。新潟が大好きな私は、大好きな新潟の人々が未来もずっと幸せに暮らしてほしいです。だから、先生になった時、人間と環境は大切だと次の子ども達に伝えていきたいです。